

2018

サンダンス映画祭

ワールドシネマ部門正式出品

2018

カンヌ映画協会

青少年スクリーニング部門正式出品

2018

ヴァランシエンヌ映画祭

(Festival 2 Valenciennes) 審査員賞

人は分かり合いたいと願った時、
もう分かり合えているのかもしれないね。



北の果ての小さな村で

Une année polaire

監督・撮影・脚本：サミュエル・コラルデ

2017 / フランス / グリーンランド語、デンマーク語 / 94分 配給：ザジフィルムズ



文部科学省選定(少年・青年・成人・家庭向き) 東京都推奨映画 年少者映画審議会推薦



世界一大きな島 グリーンランドの、人口わずか80人の村にデンマークから1人の青年教師がやって来ました。
そこには、しなやかに力強く生きる人々の、シンプルだけど豊かな暮らしがありました。



デンマーク人の新人教師が、世界一大きな島グリーンランドで、 狩る、食べる、学ぶ、楽しむ…すべてがシンプルでありながら 心豊かに暮らす村人たちと、出会った——。

私がずっと憧れ、見たいところがあるわけじゃなくて、ただ「そこにいたい」と思って旅したグリーンランドのすばらしさや大変さがぎゅっと詰まっている。こんなに入りこんでくれたことに大感謝です。

しかもこれ、ドキュメンタリーじゃないのに、すべて現実につながっているんですよ！グーグルアースやfacebookで、映画の舞台や登場人物の現在をつい確認してしまいました。

能町みね子 (文筆家・自称漫画家)



これは、「生き場所」を探す映画だ。人間は古来、危険を冒して新天地を目指してきたが、主人公の青年もまた、本国の息苦しさから逃げるために辺境の地に来た。その美しくも厳しい風景の中で、彼が携えてきた「知識」はあまり役立たなかったが、先住の村人から「知恵」を分けてもらい、生き場所を見つけていく。その姿に静かな共感を覚えた。

大塚茂夫 (『ナショナルジオグラフィック』日本版編集長)

未知の絶景、犬ぞり冒険、狩猟、オーロラ…初めて見るのに、懐かしいイヌイットたち！主人公の青年が、故郷から逃げ、「自分の居場所」を見つけたように、しあわせは、自分自身で決めていいのだ。

たかのてろこ (地球の広報・旅人・エッセイスト)

大きくて美しいグリーンランドの風景と、チニツクラークという村の人々のこまやかな暮らしの描写が素晴らしい。特に、狩りと漁のくっきりとしたディテールが忘れられません。

この映画から世界のローカルの、かけがえのない地域のひとつを発見した気分です。

指出一正 (ソトコ編集長)



私たちにとって大切なこと。それは、何を学ぶのかではなく、何を愛するのかということだと気づかされました。

松浦弥太郎 (エッセイスト)

この映画の最も大切なメッセージは、イヌイットのような少数民族に、西洋の文化や言葉を教えたいと思うなら、まず彼らの文化や歴史、言葉を尊敬するべきだということ。彼らにとって教育とは「人々と分け合う」ことの大切さと意味を教えること。それがイヌイットの文化の基であり、平和の礎なのだから。

C.W.ニコル (作家・ナチュラリスト)

伝統的な生活には知恵や逞しさがある。都会的な生活には便利さがあり人生の選択肢は広がる。どちらが“生きてる”という実感があのか考えさせられる作品だ。空撮や、まるで吹雪の中にいるように感じさせる大自然の映像は必見！

植田貴之 (ABCテレビ「ボットン一軒家」チーフプロデューサー)

圧倒的・絶景！360度の大自然を余すことなく映し出した映像美に、思わず感嘆の声が出てしまいました。これは絶対に、大きなスクリーンで見たいです。

詩歩 (『死ぬまでに行きたい世界の絶景』プロデューサー)

生きている年数が重なってくると何が本当に 美しい光景で 美しい人で 美しい関係性なのか知りたいという欲求が増してきた。この映画にはその知りたいことが全て映しだされていた。リアルとフィクションの融合ドキュフィクションという撮り方の手法にもとても興味を惹かれました。

野村友里 (料理人・eattrip主宰)

自分は何がしたいんだっけ、何が楽しくて生きてるんだろう。大切なことに気づかせてくれる作品。あの自然と、人々の知恵と、暮らしぶりに惚れ惚れしました。情報に溢れている今だからこそ、見てほしい。心にとでも響きました。

西田尚美 (俳優)

映画って、すごい。見終わって、しみじみと思う。その思いは胸の中で小さな美しい珠になって、静かに煌めき続ける。そういう珠を作ってくれる作品だった。

あやのあつこ (作家)

過酷な自然環境の中でシンプルに逞しく暮らす人々。まるで人生の哲学を教えてもらっているような心温かいメッセージが込められた作品だ。何よりも、全編を通して映し出されるグリーンランドの雄大な自然と映像美に圧倒される。

比嘉バービー (タレント・モデル)

先住民族と分かり合うには、同じ目線で、彼らの風習を理解することからスタートします。教師としてデンマークから赴任したアンダース青年が、最初は奇立ちながらも、やがてそれに気付き、北の果ての小さな村で、民族の壁を越える繋がりを作り上げていく姿に、まだまだ世の中は捨てたものではない、と心が温まりました。

山崎哲秀 (犬ぞり北極探検家)



心を通わせる少年アサーと共に犬ぞりを駆って自然との共存の旅に出る青年教師アンダース。最大の獲物は本物の自分と出会うことだ。その表情は厳しくても僻地教育に自分探しを委ねるといって甘い夢を打ち砕かれたときの暗さはない。後は観て感じて自分の言葉で語って欲しい。

志茂田景樹 (よい子に読み聞かせ隊 隊長、作家)

※敬称略・順不同

STORY

グリーンランドの小さな村の小学校に、デンマークから新米教師アンダースが赴任した。言語の違いで授業はままならず、考え方の違いから村では孤立。そして過酷な自然…。ある日狩猟のために学校を休んだ児童の一人アサーの家を訪れたアンダースは、少年の祖父母から、しなやかに強く生きていく術を学ぶことになる…。

